

**(1) 出題方針**

英語は例年どおり、長文二題(合計 150 点)と会話文一題(50 点)の構成(合計 200 点)で出題した。長文問題の本文は最近の雑誌、新聞、書籍などからの一部抜粋で題材は多岐にわたるが、理系や文系など各学部と比較的沿った内容となるよう配慮し、受験生の学習・努力が報われるような出題を意図した。本文は出典の著作権を遵守しているため原文のままだが、難易度が高すぎると思われる単語や成句、および専門的な用語や概念には原則的に注をつけて、内容に関する特別な知識がなくても問題のないよう留意した。

長文問題は一題が約 700~1000 語で、二題の合計語数が 1800 語程度になるように調整し、語数が比較的多い場合は設問の難易度レベルで他の問題と大きな差が出ないように意図した。長文問題は、語彙や構文などに関する知識や総合的な読解力を問う設問を中心に、前置詞や接続詞の空所補充問題、単語・句・文の意味・内容が近いものへの置き換え問題、整序英作文問題、本文の意味・内容に合致する文を選択する正誤問題、および英文和訳問題を出題した。

空所補充問題および置き換え問題は、文脈に照らして最も適切なものを選択するものが多く、熟読せずに選択肢から解答すると正解に至りにくいように選択肢を慎重に構成した。整序英作文問題では文法や構文の理解力が問われるだけでなく、文脈に沿った深い読解力が求められる。正誤問題では、本文の意味・内容に合致するか否かの根拠が本文中に示されているため、問題文が本文のどの部分に関係しているか、論の構成や展開がどのようなものであるかを正しく把握して読み進める力が求められる。正誤問題のなかには、本文中の一箇所だけの記述を見るのではなく、複数の箇所を読んで総合的に判断しなければ解けないものも含まれている。

会話文の語数は 550 語(460~610 語)程度である。設定された場面や登場人物の人間関係を把握し、会話の流れを正確に理解することが求められる。会話文からは和文英訳問題を出題した。

**(2) 解答状況および解説**

前置詞、接続詞などの空所補充問題の平均得点率は概ね高かった。得点率が低かったものの多くは、文脈から判断して答えを選ぶ問題であった。置き換え問題でも平均得点率の低かった問題は、概ね文脈の正確な理解なしには正解できないものである。置き換え問題は、選択肢から答えを安易に類推するのではなく、選んだ答えに置き換えた場合に本文の論理的整合性が保たれるかを確認した上での解答が要求される。

整序英作文問題は、問題によって平均得点率がかなり低いものと比較的高いものに傾向が分かれた。他の問題と比べて整序英作文問題で受験者全員の平均点と合格者の平均点の差が特に顕著に見られた。単に教科書にあるような決まった構文を入れるタイプの問題が少なく、文脈を理解しなければ意味が通るように単語を入れることができないように空所が構成されていたためだと考えられる。英語構文や成句の知識をしっかりと修得しておくことのみならず、単語力・読解力に基づいた総合的的作文力が求められる。正誤問題は、概ね本文の流れに沿って順番に設けられているが、本文全体の要旨や論旨の展開を把握していなければ解けない問題もあるため、限られた時間内に集中して取り組む必要がある。会話文問題の平均得点率は各日程を通して概ね高く、各話題に対する理解度も高かったようである。

英文和訳問題と和文英訳問題の受験生全体の平均得点率は日程により多少の違いはあるが、理系などで低い傾向にあった。語彙に関する問題の得点率が高いにも拘らず訳出問題の得点率が低い傾向に鑑みれば、単語や成句を単に暗記するのではなく、文法や文構造を正しく理解して運用する能力を養う必要があるといえよう。訳出の際にはいくつかの方法があるが、部分的には訳出していても、全体からすると意味をなさない日本語訳も散見された。また、和訳の問題によっては、場所がどこを指すかを明確にして訳すよう求める問題もあったた

め、文脈の中での正確な理解力が求められる。合格者の平均得点率は、受験生全体の平均得点率よりも概ね9～17%高い結果であった。

### (3) 受験生へのメッセージ

上記のように、本学の英語入試では、主として長文の論旨や論理的構造を正確に把握しながら、著者の主張を正しく把握する能力、的確な語彙選択、および構文による訳出の能力があるかどうかを問う。本学での語学教育や教養教育ではその能力を基に思考力の涵養とコミュニケーション能力の養成に力を注ぐため、その基盤が入学前に培われているかどうかと問われていると考えていただきたい。

以下に受験準備のアドバイスをいくつか挙げておく。

- ① 長文問題の読解には多くの集中力と持続力が必要となる。日頃の授業を大切にす。
- ② 過去の入試問題に取り組み、語彙、構文力を培いながら読解力や訳出力を伸ばす。
- ③ 長文問題の本文は、最近の雑誌、新聞、書籍などから抜粋し、多岐にわたる。普段から 時事問題や話題のトピックにも関心を持つようにする。
- ④ 長文を読む際には、段落のつながりと著者の主張を意識して読む。段落の冒頭の主題となる文(トピックセンテンス(topic sentence)/キーセンテンス(key sentence)といわれる文)で文意を把握し、段落ごとの関係を意識して読む。
- ⑤ 長文問題の熟読に時間を要するかもしれないため、最後の会話問題については短時間で文脈に沿った正しい解答を選べるよう、日頃からコミュニケーション力を養っておく。
- ⑥ 訳す際のポイントとしては、単語の選択や構文(例えば、和文英訳であれば、従属接続詞、動名詞、不定詞を用いるなど)のバリエーションがあるが、的確な選択によって自然な訳出を行う必要がある。英語で作文をする習慣をつけよう。
- ⑦ 会話文から出題される和文英訳では、スペルや時制でのミスは減点の対象となる。そのため、語彙は日頃から書いて覚える。試験ではケアレスミスをしないよう注意する。

入試問題は容易ではないが、英文を通して知る世界には未知なる景色や知識が広がっている。入学試験はさらに広がる世界への登竜門である。未来への扉を開くために、コツコツと日々努力してほしい。

◆英語◆ 出題の意図

101	出題の意図
【Ⅰ】	<p>本出題文は、The New York Times 紙に掲載された文章で、マンモスの遺物の DNA 解析の結果、今までの定説を覆す新たな発見があったことについて記したものである。DNA 解析の手順などが詳しく書かれているので、論理をしっかりと追って読むことが重要である。空所補充、語彙、節・句の言い換え、整序英作文の問題では、各々の該当箇所の前後の文脈を正しく理解し判断できるかを見た。I-E の内容一致問題では、出題文の論旨を理解して本文の該当箇所と照らし合わせるができるかを問うた。</p>
【Ⅱ】	<p>本出題文は、Discover Magazine に掲載された文章で、北極や南極の氷が溶けることによる長期的影響について問うている。問題Ⅰと同様、空所補充、語彙、節・句の言い換え、整序英作文では、概ね各々の該当箇所の前後の文脈を正しく理解し、判断できるかを問うた。II-D の整序英作文問題では、成句 as much as～ および due to の理解に加え、全体の構文の has been を入れるのが意外と難しかったようだ。内容一致問題では時間内に出題文の論旨を理解し、本文の該当箇所と照らし合わせて3つの正解を選べるかを見ることを意図した。</p>
【Ⅲ】	<p>二人のクラスメートの読書についての会話である。内容はアイザック・アシモフのロボット論の説明になっている。会話問題の平均得点率は概ね高かった。III-B の和文英訳の平均得点率は平均的で、作文の表現に特にひねった部分はなかった。「～について書く」を訳す際に write about として目的語が「いつの日か本当に存在しうる新しいタイプの技術」となるので、a new type of technology that could exist some day と、時制に注意しながら訳すことが必要である。</p>
102	出題の意図
【Ⅰ】	<p>本出題文は、Science News for Students に掲載された文章で、手で書いたほうが、キーボードでタイプするよりも内容について記憶できる度合いが高いことを、脳の働きと合わせて説明している。空所補充、語彙、節・句の言い換え、整序英作文の問題では、各々の該当箇所の前後の文脈を正しく理解し判断できるかを見た。I-E の内容一致問題では、文章中に出てくる人名などをヒントにして、本文の該当箇所と照らし合わせるができるかと答えやすいだろう。</p>
【Ⅱ】	<p>本出題文は、How to Make Coffee: The Science behind the Bean という書物からの一部抜粋でコーヒーの発見から世界的拡大までの歴史について書いてある。空所補充、語彙、節・句の言い換え、空所補充型整序、内容一致、英文和訳を出題し、II-B では単語自体はやさしいが文章中での意味を文脈から推測できるかを問うた。II-D の整序英作文のポイントは、文脈から最初の Despite という逆説の接続詞を入れられるか、また複合的な構文を作れるかである。II-F の英文和訳では、単なる訳ではなく、文中に出てくる2箇所がどこを指すのかを訳出するという内容理解力が同時に問われた。</p>
【Ⅲ】	<p>出題文は、友人二人が公園で行っている会話である。1人は絵の才能が、もう1人は音楽の才能がある。話が比喻やジョークを交えて展開するので、難しいと感じたかもしれない。和文英訳問題での訳出では、「どんなにきつい練習をしても」 however hard you practice または no matter how hard you practice の構文が書けるかどうかと、「それを楽しく感じるなら」の訳出 enjoy it, have fun, find it enjoyable などの表現をナチュラルな英語で表現できるかどうかで差がついた。</p>

103	出題の意図
〔Ⅰ〕	<p>本出題文は、The Scientist に掲載された文章で、動物の認知能力について記したものである。鳩を使った実験についてかなり詳細な記述があり、注を参照しながら論理をしっかりと追って読むことが重要である。空所補充、語彙、節・句の言い換え、整序英作文の問題では、各々の該当箇所の前後の文脈を正しく理解し判断できるかを見た。I-E の内容一致問題では、出題文の論旨を理解して本文の該当箇所と照らし合わせることができるかを問うた。</p>
〔Ⅱ〕	<p>本出題文は、Scientific American に掲載された文章で、二人の人間が会話をどのくらいの時間続けたいか、いつ打ち切りたいと考えるかに関する実験について説明している。空所補充、語彙、節・句の言い換え、整序英作文では、概ね各々の該当箇所の前後の文脈を正しく理解し、判断できるかを問うた。II-D の整序英作文問題では、成句 might as well が入るかどうかが一つの分かれ目となったと思われる。最後の more than less を入れるのも難しかったかもしれない。</p>
〔Ⅲ〕	<p>二人のクラスメートのオーディオブックについての会話である。論理が比較的素直に展開するので読みやすかったようで、会話問題の平均得点率は概ね高かった。III-B の和文英訳の平均得点率も比較的高かった。作文の表現に特にひねった部分はなく、「～ほど悪くない」の not as bad as ～ができれば、他は特に難しくないだろう。</p>
104	出題の意図
〔Ⅰ〕	<p>本出題文は、New Scientist に掲載された文章で、最近発見された絶滅種の人類に関するものである。注は比較的少ないが、細かい科学的な記述が多いので、しっかり文脈を捉えることが必要である。空所補充、語彙、節・句の言い換え、整序英作文では、概ね各々の該当箇所の前後の文脈を正しく理解し、判断できるかを問うた。I-C の言い換え問題では、Not everyone is convinced という部分否定の構文の意味がとれるかが重要である。I-E の正誤問題は、異なる人類の絶滅種の種類の区別ができるかどうかで正答に辿り着けるかが決まったと思われる。</p>
〔Ⅱ〕	<p>本出題文は、The Guardian 紙に掲載された文章で、食料廃棄について書かれたものである。最近の傾向として SDGs などの話題が取り上げられることは多いので、その内容だけでなく、主な表現が英語でどのように言われるのかを一通り覚えておいた方がいいだろう。空所補充、語彙、節・句の言い換え、整序英作文の問題では、各々の該当箇所の前後の文脈を正しく理解し判断できるかを見た。II-D では、「～(時)までに」の by は確実に入れた上で「半分にするという」の of halving ができるかが重要。内容一致問題では時間内に出題文の論旨を理解し、本文の該当箇所と照らし合わせて3つの正解を選べるかを見ることを意図した。</p>
〔Ⅲ〕	<p>出題文は、友人二人が猫タイプの人間か、犬タイプの人間か論じている。話が比喩やジョークを交えて展開するので、難しいと感じたかもしれない。III-A は常に正答率は比較的高い傾向にあるが、答えを導き出すのに多少時間がかかったのではないだろうか。和文英訳問題では全体の構文も重要だが、「もめごと」を英語でどのように表現できるかどうかなど、自然な英語のコミュニケーション能力の有無を問うた。</p>

105	<b>出題の意図</b>
[ I ]	<p>本出題文は、The New York Times 紙に掲載された文章で、近世イギリスで多用されていた秘密の手紙の封じ方と、手紙の内容を読める3次元的コンピュータ解析技術について書かれたものである。空所補充、語彙、節・句の言い換え、整序英作文の問題では、各々の該当箇所の前後の文脈を正しく理解し判断できるかを見た。I-E の内容一致問題では、技術的な内容の部分の読解に注意しながら、出題文の論旨を理解して本文の該当箇所と照らし合わせることができるかを問うた。</p>
[ II ]	<p>出題文は、Disstilations に掲載された文章で、科学的実験の統計的有意性に関する概念がいかに最初に思いつかれたかを解説している。空所補充、語彙、節・句の言い換え、整序英作文、内容一致問題を出题し、各々文脈を正しく理解し判断できるかを見た。II-D の整序英作文問題は、「～と同じではない」の not the same as ～ができるかどうか重要であった。II-E の内容一致問題では本文の内容についての読解力を問い、II-F の英文和訳の意図は、(主語)+allow+(人)を「(主語)のおかげで(人)が～できた」、isolate the key points を「重要な点をそこだけ取り出す」のように、意味を考えて日本語で表現できるかどうかを問うた。</p>
[ III ]	<p>出題文は、ソウル・ライターという写真家の展覧会についての会話。文章を読みながら、写真に描かれたイメージが頭に浮かぶような語学力を目指してもらいたい。III-A は常に正答率は比較的高い傾向にあるが、前後の直接のヒントが必ずしもあるわけではないので、よく読まないで解けないだろう。和文英訳問題での訳出では全体の構文は難しくないが、「窓の下のほうに」を正確に訳せた解答がほとんどなかった。文脈では、窓ガラスの下の方に字が透けて見えるということなので、文字は窓ガラスに貼られているため at the bottom of the window としなければならないところをほとんどの回答が below the window または、under the window となっていた。</p>
106	<b>出題の意図</b>
[ I ]	<p>本出題文は、Songs Upon the Rivers という書物からの一部抜粋で、北米の歴史のなかで忘れられがちなフランス系探検家や先住民のアメリカ文化への影響の大きさを論じた文章である。フランス語の単語が頻出し、内容もやや専門的なので、注の多さに気圧されない精神力が求められる問題である。日頃から世界の歴史や国際問題に関心を持っていると英語力も自然と伸びるので、国外の情報源になるべく触れる機会を増やすよう努力しよう。空所補充、語彙、節・句の言い換え、空所補充型整序、内容一致、英文和訳を出题した。I-E は本文の内容を平易に言い直した文が正解となっているので、本文の概要がわかれば比較的解きやすかったと思われる。</p>
[ II ]	<p>本出題文は、Discover Manazine に掲載された文章で、ハーバード大学の天文学研究室で夜空の詳細な分析を行なった女性研究者たちに関する内容である。問題Iと同様、空所補充、語彙、節・句の言い換え、整序英作文では、概ね各々の該当箇所の前後の文脈を正しく理解し、判断できるかを問うた。II-D の整序英作文問題では、成句 too ~ to およびそれを強調するための far を入れるのがポイントとなっていた。内容一致問題では時間内に出題文の論旨を理解し、本文の該当箇所と照らし合わせて3つの正解を選べるかを見ることを意図した。</p>

[Ⅲ]	<p>出題文は、アメリカ人の若者が日本人の友人に、日本ではなぜ人々がこれほど桜に関心を持つのかについて質問している会話である。アメリカと日本の文化が比較されている他、話が比喻やジョークを交えて展開するので、よく読まないと空所を補充しにくかったかもしれない。和文英訳問題では「重要な位置を占める」を直訳的に occupy an important position とするか、意味を噛み砕いて「重要な役割を果たす」play an important role のように表現するか、どちらでも正解となりうる。</p>
107	<p><b>出題の意図</b></p>
[Ⅰ]	<p>本出題文は、Smell という書物からの一部抜粋で、嗅覚と記憶の関係を論じた文章である。脳の中の嗅覚に関連する部分に関する単語がたくさん出ていて、注の多さに心折れない精神力が求められる問題である。空所補充、語彙、節・句の言い換え、整序英作文の問題では、各々の該当箇所の前後の文脈を正しく理解し判断できるかを見た。I-E の内容一致問題では、出題文の論旨を理解して本文の該当箇所と照らし合わせることができかを問うた。</p>
[Ⅱ]	<p>本出題文は、The New York Times 紙に掲載された文章で、アメリカとヨーロッパでの犬の行動の違いから、犬との正しい付き合い方について論じたものである。空所補充、語彙、節・句の言い換え、整序英作文の問題では、各々の該当箇所の前後の文脈を正しく理解し判断できるかを見た。語彙の問題は、単語はやさしいが文脈の中で同じ意味のものを選ばなければならないので注意が必要だ。II-F の英文和訳では、This is not the case の意味が取れるかどうかポイントである。</p>
[Ⅲ]	<p>二人のクラスメートが、宝くじに当たったら何をしたいかについて話し合っている会話である。会話問題の平均得点率は概ね高かった。III-B の和文英訳の平均得点率は平均的で、作文の表現に特にひねった部分はなかった。全体的に平易な英訳なので、「お金を稼ぐ」earn money あるいは make money などと自然な英語表現ができれば高得点が望めるが、そうでないと大きな失点となるので、作文練習には十分時間をかけて準備したい。</p>